

第6回精和病院移転・統合検討委員会 議事概要

開催日時：令和8年1月19日（月）15時00分～17時00分

開催場所：沖縄県南部合同庁舎4階第2会議室

議事概要：

精和病院の南部医療センター・こども医療センター（以下「センター」という。）の移転・統合については、令和6年5月に基本計画を策定したが、その後実施した基礎調査の結果を踏まえ、一部見直しの検討を行うこととなった。

本委員会においては、新棟配置案の比較検討、作業部会等における新棟病床数の検討状況などを報告した。

1. 新棟配置場所の検討について

次の3案について、移転・統合で求められる役割・医療機能、工期、整備費用などから総合的に検討した結果、②案に決定した。

新棟の配置案（別紙参照）

- ①案：センター既存建物（以下「本館」という。）の東側に新棟を整備する案
- ②案：本館東側の外来駐車場に新棟を整備する案
- ③案：本館南側の小児病棟側に新棟を整備する案

また、以下のような意見等があった。

- 精神科と小児科等とが近接することに対する懸念が示されているが、大学病院、宮古病院、八重山病院においても、精神科と他科が同一建物に配置されており、特に問題はないのではないか。また、精神科と小児・周産期など各科のシームレスな連携が求められている。
- 精和病院移転・統合により、南部医療センター・こども医療センターのこども病院としてのアイデンティティが失われないようにすべき。
- 中部病院においては、精神科病棟が設置されていないことから、一般病棟で精神患者を受け入れている。病院職員が慣れていく必要がある。
- ②案では新棟と本館との距離が40メートルで長いとの意見があるが、病棟間が100メートル以上もある県外大学病院もある。精神身体合併症については、はじめに本館の救命救急センターが対応し、その後精神科病棟へ移動する。また、精神科病棟

の患者の急変への対応は、患者が動くのではなく、本館の救急医等が移動することになるのではないか。

- ブリッジの長さは大きな問題ではない。精和病院が総合病院の単なる一診療科とならないよう、建物を分けて整備することが重要である。②案については、新棟と本館との距離が懸念されているが、将来の本館建替の際には、最も近いものとなっている。
- 新棟と本館の距離は近い方がよいと考えるが、自身が実際に働いていた病院からイメージすると、どの案も特に問題ないのではないか。本県の精神医療で不足する精神身体合併症への対応をより早期に実現することができる②案がよいと考える。また、整備費用も②案が安価である。
- 新棟と本館との40メートルの距離が問題ないのであれば、工期、費用が重要と考えることから、②案がよいのではないか。
- 南部医療センター・こども医療センターには精神科病棟が設置され、20年間の実績がある。この経験を踏まえると、新棟が近接する方がよいことから、③案が最もよいと考えている。
- 職員は、希望する病院の完成を待つということになれば、我慢のしがいもあるのでないか。また、将来の本館建替の検討の際には、面積がより大きく確保できることから、①案がよいのではないか。
- 本県の精神医療で不足する精神身体合併症へのより早期の対応が求められており、これを実現できるのでは②案である。精神身体合併症を診ることができる病院を早期に整備すべきとの意見も尊重すべき。
- 新棟の距離が離れていると南部医療センター・こども医療センター医師が来ないのではないかと意見があるが、この文化を変えなければならない。そうしなければ移転・統合するメリットがないと思う。より早期に移転・統合することにより、精和病院の患者がより良い環境で療養できるようすべきである。

2. 新棟における病床数の検討について

基本計画における新棟病床数は150床となっているが、医療需要を踏まえつつ、後年度の負担軽減を図るため、ダウンサイジングを検討しており、この検討状況を報告した。

また、以下のような意見等があった。

- 将来的に 150 床を維持することは困難であり、100 床程度までダウンサイジングすべきではないか。フロア数については、収支を踏まえると 2 フロアをベースに検討した方がよいのではないか。移転・統合したにも関わらず、医師や看護師など職員数が不足することで、求められる精神身体合併症などの医療機能を果たせなくなるのが懸念される。
- 病床数 150 床は多いと考えているが、精神身体合併症患者については、他医療機関の合併症救急の病床数を超過することが予想され、一定数を精和病院で受け入れることが見込まれる。病棟数は 3 病棟、病床数は 120 床程度でよいと考える。
- 救急合併症病棟の病床数は 50 床程度でよいのではないか。今後、少子高齢化により患者が減少する見通しであるものの、透析患者、妊産婦、児童思春期など様々なニーズがあると考え、150 床を 108 床程度にすることは許容範囲と考えている。精神科医は、精神身体合併症患者だけではなく、精神疾患をきちんと診たいとの希望が多いと考えており、働きたい医師がいたとしても、建物は整備したものの、中身がないとなると本末転倒ではないか。

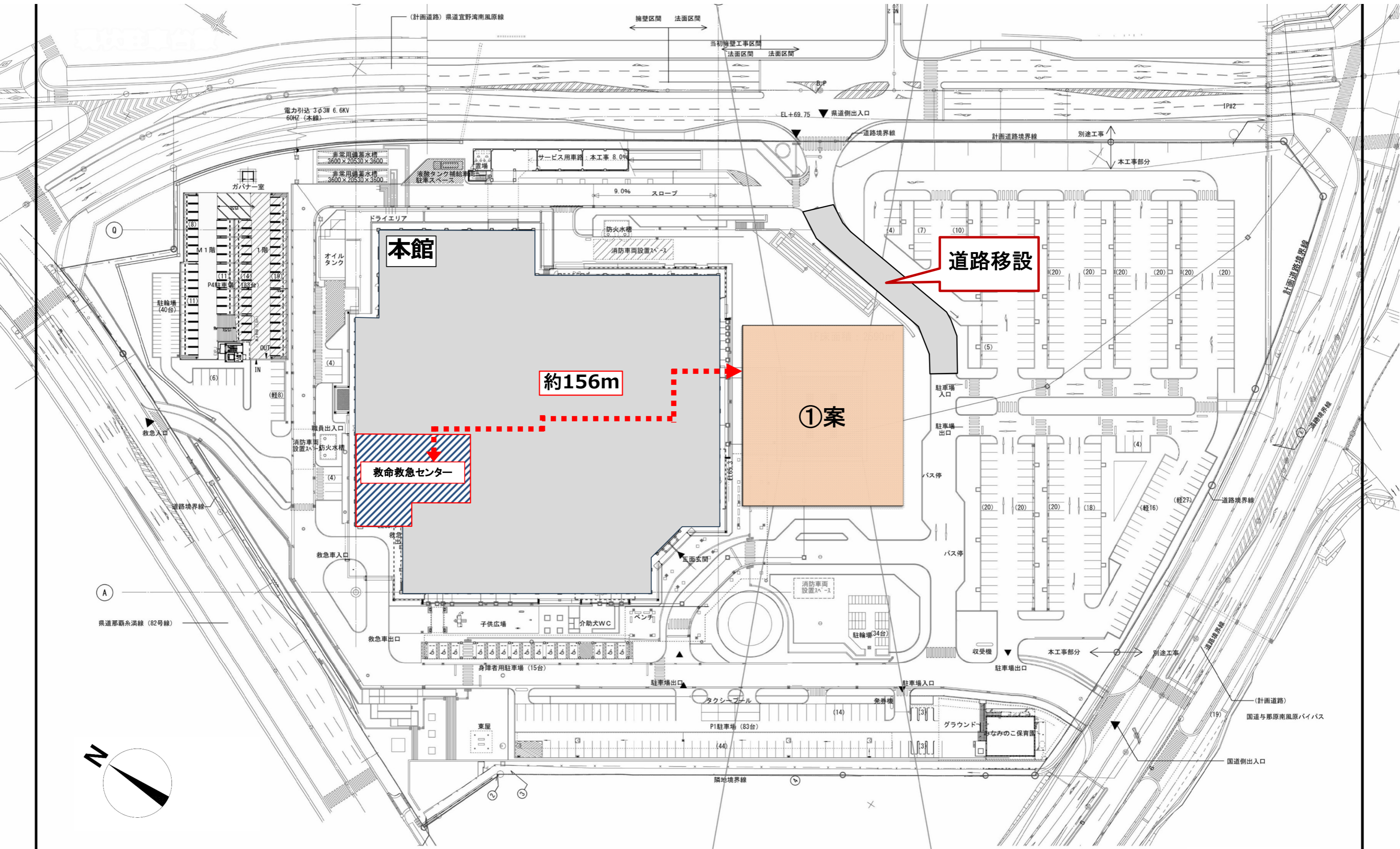
3. 南部医療センター既存棟の活用について

整備費用の圧縮を図るため、南部医療センター・こども医療センターの既存棟を活用し精神科病床を整備できないか検討を行ったが、既存棟改修に要する費用が高く、費用圧縮が見込めなかったことから、既存棟の活用は行わないこととなった。

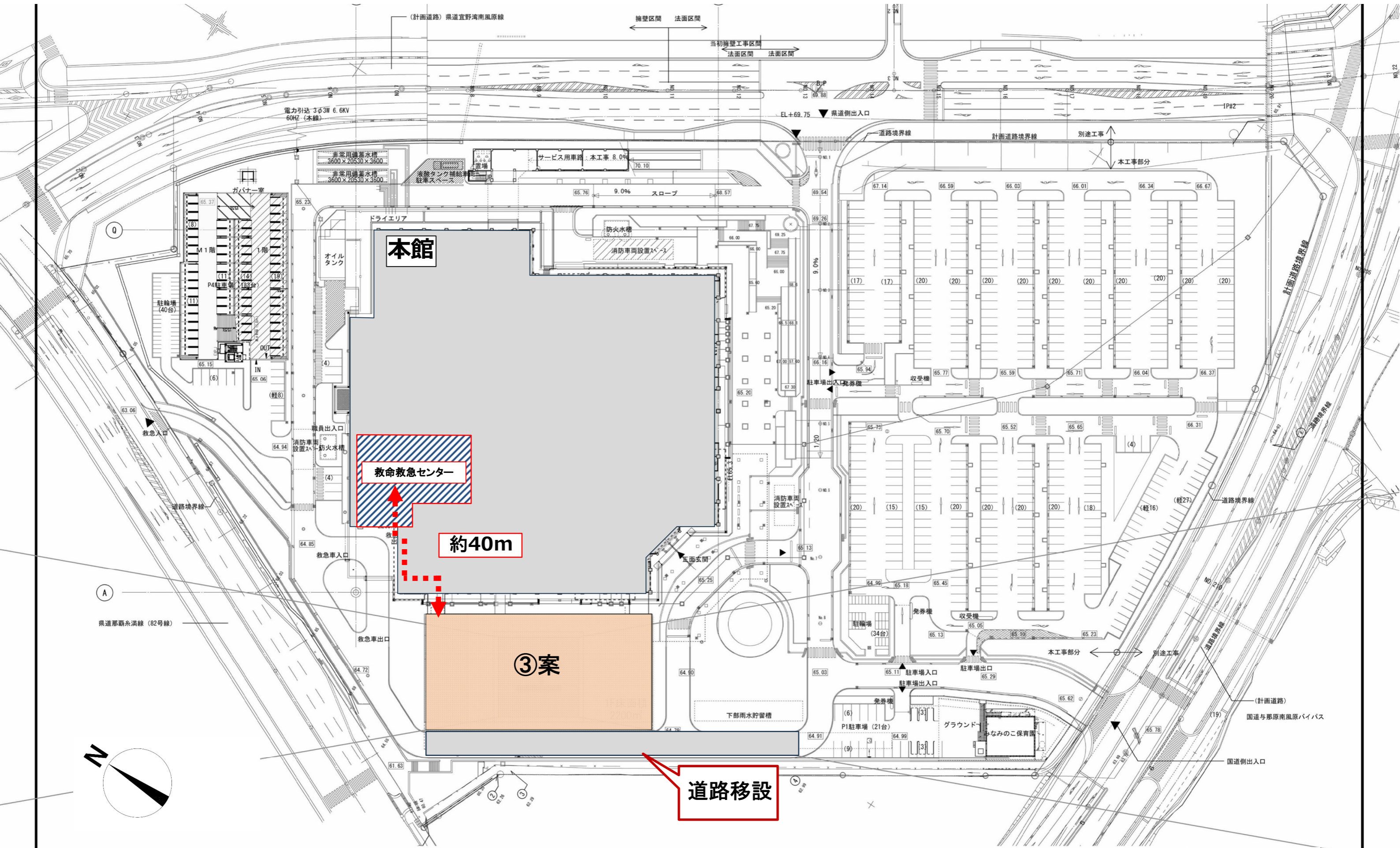
4. 精和病院と総合精神保健福祉センターの連携強化に向けた施設の一体化について

保健医療介護部と病院事業局とでワーキンググループを設置し、具体的な検討を進ることとなった。

新棟配置計画 ①案



新棟配置計画 ③案



第6回 精和病院移転・統合検討委員会 名簿

	氏 名	役 職	備 考
1	本竹 秀光	病院事業局 局長	委員長
2	佐々木 尚美	北部病院 院長	
3	天願 俊穂	中部病院 院長	
4	重盛 康司	南部医療センター・ こども医療センター 院長	
5	川満 博昭	宮古病院 院長	
5	(代理出席者) 松元 博久	宮古病院 事務部長	
6	田仲 斉	八重山病院 院長	
7	屋良 一夫	精和病院 院長	
8	系数 公	保健医療介護部 部長	
8	(代理出席者) 比嘉 奈緒子	保健医療介護部 保健衛生統括監	
9	宮城 和一郎	病院事業局 病院事業統括監	
10	牧志 倫	総合精神保健福祉センター所長	
11	小渡 敬	沖縄県精神科病院協会 会長	
12	高江洲 義和	琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 教授	
13	福治 康秀	独立行政法人国立病院機構 琉球病院 院長	
14	平安 明	沖縄県医師会 副会長	
15	川田 聡	南部医療センター・ こども医療センター 精神科部長	